

都市再生整備計画

すそのえきにしぐちちく
裾野駅西口地区

しずおかけん すそのし
静岡県 裾野市

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	静岡県	市町村名	すそのし 裾野市	地区名	すそのえきにしてち 裾野駅西口	面積	17.6	ha							
計画期間	令和	8	年度	～	令和	12	年度	交付期間	令和	8	年度	～	令和	12	年度

<p>目標</p> <p>市中心部を拠点とした商業の活性化及び交流人口の増加に向けて、裾野駅周辺のまちづくりを実現する</p> <p>①JR裾野駅周辺における歩行空間の整備による歩いて暮らせるまちづくりの実現及び駐車場・駐輪場整備による交通結節点としての機能強化</p> <p>②駅周辺地区の整備による利便性向上による商業の活性と賑わいの創出</p> <p>③駅周辺地区の整備による生活・活動の場としての拠点性の向上と交流人口の増加</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>当市は、静岡県の東部、駿河湾の北部に位置し、富士山、箱根山、多くの河川等の自然環境に恵まれるとともに、東名高速道路裾野インターチェンジや国道246号バイパスにより、富士・箱根等の観光地域を結ぶ高原リゾート拠点、研究開発型の産業拠点として発展した。しかしながら、平成27年の国勢調査で市制施行後、初の人口減少となった。人口減少局面に入ったこと、年少人口の減少と老年人口の大幅な増加が見込まれることなどから、少子高齢化社会に対応したまちづくりを行う必要があるため、平成28年3月に「裾野市都市計画マスタープラン」、平成31年3月には「裾野市立地適正化計画」を策定し、「拠点連携型都市構造」を将来都市構造に掲げ、集約・連携の都市づくりの推進を図っていくこととした。</p> <p>立地適正化計画では、全てのヒト・モノを強制的にある一点に誘導しようとするのではなく、合併の経緯や市街地形成の歴史的背景等も踏まえると郊外や既存集落の維持についても重要な観点としている。また、「地域公共交通網形成計画」との整合を図りつつ「長期的な視点で集約都市を形成するための将来都市構造のあり方」、「都市機能や居住の誘導に向けた区域設定」及び「集約都市の実現に向けた取組みを推進すること」が念頭に置かれている。中心拠点にはJR裾野駅周辺、JR岩波駅周辺を位置付け、2つの拠点性の向上により市全体の魅力と利便性のレベルアップを目指すものであり、市中心部地域の拠点であるJR裾野駅周辺では、土地区画整理事業を中心としたまちづくりが行われている。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>当市は、北部地域を中心に、昭和30年代から企業の工場誘致が進んだことにより、「農村都市」から「工業都市」へと発展を遂げる一方、裾野駅周辺を中心に商業区域が発展し、市の中心部といえる市街地を形成してきた。しかしながら近年は多くの店舗が閉まり商業の活性化が課題となっている。一方で平成15年より進めている裾野駅西土地区画整理事業の施工率が約50%となり、区画整理済みの地区に賑わいが感じられる箇所も出てきている。現在は裾野駅前広場周辺の施行を進めているが駅前の賑わい創りが課題となっている。</p> <p>また、昨今の人口減少・少子高齢化が進む中で、それらへ対応したまちづくりに向けて「裾野市立地適正化計画」を策定し、JR裾野駅とJR岩波駅の2拠点を都市機能誘導区域に位置付け、公共サービスを含む生活サービスと都市基盤施設の質を維持するために、選択と集中により効率的で持続可能な都市経営の実現を目指している。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR裾野駅周辺の大通り沿いには商業施設が立ち並び商店街を形成しているが、後継者不足等による空き店舗化が進行し、市街地が空洞化する懸念がある。 ・JR裾野駅周辺は駐車場が不足しており、小規模な個人利用の駐車場が区域内に散見され、商業・近商区域でありながら高度利用不十分な状態といえる。 ・JR裾野駅周辺は裾野市の玄関口である駅前拠点となる施設がなく、都市交流拠点としての役割が十分果たせていない状態である。 ・JR裾野駅周辺は区画整理事業により防災対策等を目的とした道路新設改良を実施したが、歩行者空間を意識した整備が出来ておらず、拠点間の回遊性向上のための施策が必要な状況である。 ・JR裾野駅周辺は乗換機能や待合機能などの交通結節点としての機能が不足している。 ・JR裾野駅周辺は区画整理後の空き地が目立ち、活気ある街並みの形成が不十分な状態である。 <p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>【第5次裾野市総合計画(2021年策定/基本構想計画期間:2021～2030年)】</p> <p>施策の大綱として、将来を見据えた暮らしや活動を支えるまちを掲げ、次世代型近未来都市の形成や駅周辺等の拠点づくりと多様な世代の交流の促進等を目指している。</p> <p>【裾野市都市計画マスタープラン(2016年策定/目標年次:2035年)】</p> <p>裾野駅は各種サービス機能が集積した中心市街地として位置づけられており、駅前は都市交流拠点としている。</p> <p>【裾野市立地適正化計画(2019年策定/目標年次:2035年)】</p> <p>立地適正化計画の方向性として、JR裾野駅周辺の拠点性の向上を図るとともに、定住促進による賑わいの創出を目指している。</p>

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

- ・立地適正化計画の方向性を踏まえ、持続可能な都市づくりに向けた「市の中心拠点とした多様な世代の交流・定住に向けて、裾野駅周辺への都市機能・居住誘導とアクセス向上により、市全体の魅力と活力あるまちづくりを実現する」ため、商業機能、医療機能等の日常生活機能だけでなく、多様な世代が利用する機能の誘導を図るとともに、市の中心拠点としての一定規模以上の高次機能の誘導を図る。
- ・多様な世代が交流することで、市民が安心して元気に暮らすことのできるまちを目指す。
- ・JR裾野駅周辺の賑わいの再生を図る。
- ・JR裾野駅前において、時間貸し駐車場の充実や駐車場の整備、駅周辺の歩行空間の整備等を行い、駅前活性化と交流人口の拡大を目指す。
- ・持続的で健全な財政運営と行政サービスを維持し、市民が住みやすいまちを目指す。
- ・市街地の活力と生活利便性を向上し、ネットワークを維持することで、郊外住宅と集落の定住とコミュニティの維持を目指す。
- ・土地区画整理事業と賑わい創出事業を一体的に実施し、効果的な駅前活性化を目指す。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

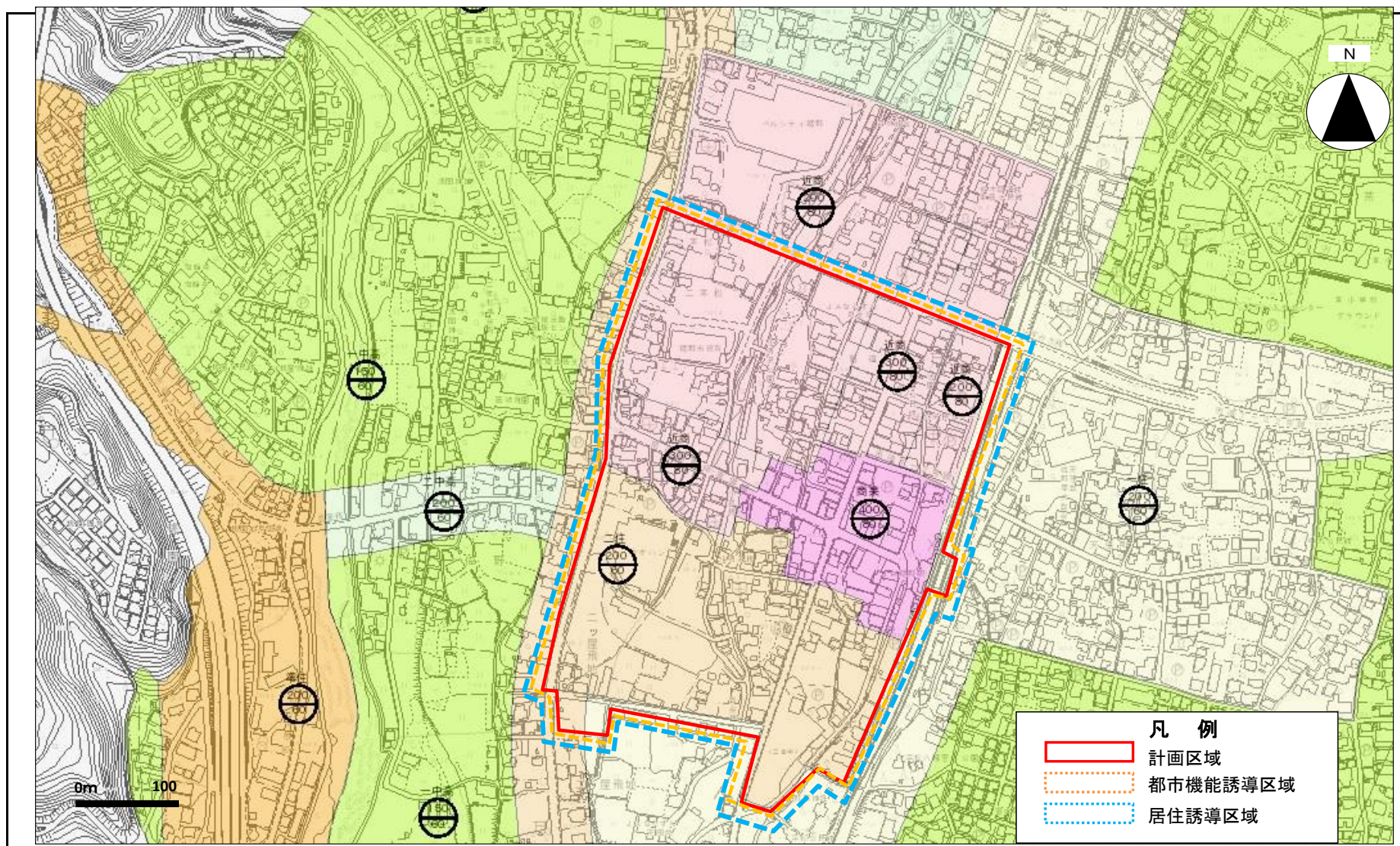
園地区は、東名高速道路裾野ICの南方約5km、JR御殿場線裾野駅西側に隣接する裾野市の中心市街地に位置するが、商業・住居環境・交通機能及び防災面等多くの問題を抱えている。
 □のため、土地区画整理事業により豊かな自然と魅力的な文化環境を備えた市民の交流拠点を創造すると共に、活気ある商業地と快適で利便性の高い住宅地を整備し、裾野市の玄関にふさわしい中心市街地の形成を図る。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
裾野駅前交差点周辺利用者数	人/日	交通量調査により把握した裾野駅前交差点利用者数(平日)	裾野野西口周辺の整備により拠点間の回遊性及び滞留性を向上させ、交流人口を増やすために裾野駅前交差点利用者数を賑わいの指標とする。	1,548	R7	1,800	R12
裾野駅西地区計画区域内における空き店舗・未利用地の活用	件	裾野駅西地区計画における建築物等の用途制限のある区域内における空き店舗・未利用地の解消件数	駅前の賑わいを創出し人流を増加させることで、区画整理事業により整備した商業利用が見込まれる空き店舗・未利用地の店舗等事業用途での活用を促進する。	0	R7	3	R12
JR裾野駅の乗降客数	人/日	静岡県統計年鑑で示される、JR裾野駅の1日当たりの乗降客数	駅を中心に周辺への賑わい波及を目指すため、乗降客数を賑わいの指標とする。	4,530	R6	5,000	R12

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>区域内商業の再生を支援するため、市有換地活用官民連携事業や地元金融機関と連携した起業支援を実施し、公有地等を活用した交流イベントの実施により駅前賑わいを創出する。</p> <p>商業の再生支援と同時に、地域生活福祉相談センター機能の移転や中高生の学習の場・子どもから高齢者までの交流の場となる学習室・多目的交流広場の整備を行うことにより、行政サービスの強化や、交流人口の増加、当市中心地域の玄関口として、駅前の魅力向上を目指す。</p> <p>また、交流人口の増加を見据え、駅前利用者の利便性向上のため、駐車場、駐輪場シェルター、シェアモビリティ、情報板などを整備する。</p> <p>併せて、区域内都市計画道路等のカラー舗装や日陰空間を創出することで、透水性・視認性向上等による歩行者の安全の確保、猛暑時の休憩スペースの確保等により、幼児から高齢者までが拠点間を回遊しやすい環境づくりを実施する。</p>	<p>○基幹事業 高質空間形成施設：裾野停車場線、駅前広場、平松新道線、桃園平松線、区画道路(9M-1号線外12) 高次都市施設：駅周辺利用者交流機能誘導事業</p> <p>○提案事業 事業効果分析調査</p> <p>○関連事業 民間事業：マーケットイベント 裾野市：健康マイレージ・寄り道ウォーキング、まちなか強化事業(観光戦略) 裾野市：新規出店者利子補給・店舗新設改修補助事業</p>
<p>駅西公園は小柄沢川の流れを活かした、親水公園としての側面と、公園内地下に災害時の飲み水としての貯水タンクが設置が設置され防災広場としての側面を持つ公園となる。駅西公園内に太陽光パネルなどの再生可能エネルギー施設を設置することにより、さらに防災機能の強化を目指す。併せて、あずまやや遊戯施設・休養施設を整備することにより、滞留性と、周囲の地域拠点への回遊性を高めエリア価値の向上を目指す。</p> <p>小柄沢緑地は、裾野市役所本庁舎に隣接された都市緑地であり、中心市街地の中で周辺住民や駅周辺利用者の憩いの場として利用されている拠点のひとつである。区画整理事業の進捗に併せ緑地整備計画を策定し、歩行者環境に配慮した動線の確保や日陰を意識した居場所づくりを実施することで、駅周辺利用者の利便性向上を図り、幼児から高齢者までが滞留しやすい環境づくりを実施する。</p>	<p>○基幹事業 公園：駅西公園 遊戯施設・休養施設、小柄沢緑地 公園整備 地域生活基盤施設：再生可能エネルギー施設</p> <p>○提案事業 事業活用調査：小柄沢緑地整備計画策定WS等開催</p>
<p>その他</p>	

裾野駅西口地区(静岡県裾野市)	面積	17.6 ha	区域	佐野、平松、二ツ屋
-----------------	----	---------	----	-----------



裾野駅西口地区(静岡県裾野市) 整備方針概要図(都市構造再編集中事業)

目標	市中心部を拠点とした商業の活性化及び交流人口の増加に向けて、裾野駅周辺のまちづくりを実現する ①JR裾野駅周辺における歩行空間の整備による歩いて暮らせるまちづくりの実現及び駐車場・駐輪場整備による交通結節点としての機能強化 ②駅周辺地区の整備による利便性向上による商業の活性と賑わいの創出 ③駅周辺地区の整備による生活・活動の場としての拠点性の向上と交流人口の増加	代表的な指標	裾野駅前交差点周辺利用者数 (人/日)	1,548	(R7)	→	1,800	(R12)
			裾野駅西地区計画区域内における空き店舗・未利用地の活用 (件)	0	(R7)	→	3	(R12)
			JR裾野駅の乗降客数 (人/日)	4,530	(R6)	→	5,000	(R12)

